

最先端研究開発支援プログラム(FIRST)「次世代質量分析システム開発と創薬・診断への貢献」(田中プロジェクト)
の取扱いについて

平成 24 年 11 月 2 日
内 閣 府
政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)

1. 田中耕一中心研究者が主導する FIRST プログラムの共同提案者の 1 人である辻本豪三元京都大学教授が、研究費の不正使用に係る収賄容疑で逮捕・起訴された。これを受け、田中プロジェクト「次世代質量分析システム開発と創薬・診断への貢献」の取扱いについて、「最先端研究開発支援推進会議(科学技術担当政務三役と総合科学技術会議有識者議員で構成)」において、下記の経過をもって、調査検討とこれに基づく判断を行った。
2. 結論として、別紙のとおり、プロジェクトは、継続実施を既定路線とするのではなく、実施の是非をゼロベースから見直し、一部の研究テーマを廃止するとともに、研究課題の再整理、研究実施・推進体制を再構築した上で、実施していくこととされた。
3. なお、本プロジェクトに係る研究計画の見直し内容の妥当性について、FIRST の中間評価において確認することとしている。

(参考) 田中プロジェクトの取扱いに係る調査検討及び判断の経過

最先端研究開発支援推進会議が判断を行うに当たっては、総合科学技術会議有識者議員で構成する「最先端研究開発支援プログラム推進チーム」が、外部有識者の協力を得て、調査検討を実施した。

- (1) 8月 23 日 最先端研究開発支援推進会議(検討、判断の進め方を決定)
- (2) 9月 6日 最先端研究開発支援推進会議(スケジュールや論点の決定)
- (3) 最先端研究開発支援プログラム推進チームで調査検討
 - 9月 12 日 補助事業者(科学技術振興機構、京都大学、島津製作所)からの聴取
 - 26 日 補助事業者(科学技術振興機構、京都大学、島津製作所)からの聴取
 - 10 月 18 日 プロジェクトの今後の取扱いに係る調査検討結果の審議
- (4) 10 月 25 日 最先端研究開発支援推進会議(プロジェクトの今後の取扱いの決定)